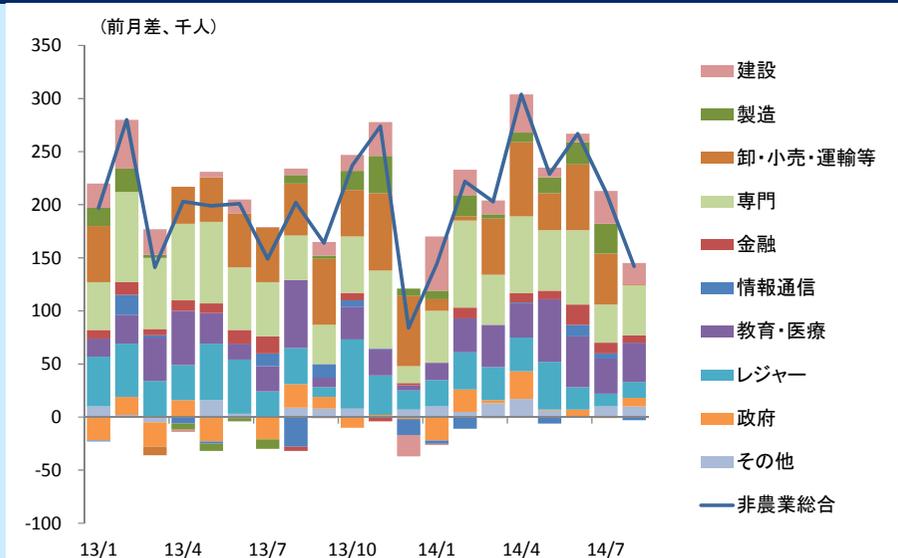


## 米国：雇用統計（2014年8月）

MRI Daily Economic Points  
September 8, 2014

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



## 評価ポイント

## 今回の結果

- 8月の非農業部門雇用者数は、前月差+14.2万人増となった。7月は上方修正(+20.9万人→+21.2万人)される一方、6月は下方修正(+29.8万人→+26.7万人)された。
- 内訳をみると、サービス業(同+11.2万人)では、小売(同▲0.8万人)などが減少した一方、専門・ビジネス(同+4.7万人)、教育・医療(同+3.7万人)、レジャー(同+1.5万人)などが増加した。サービス業以外では、建設業(同+2.0万人)、政府部門(同+0.8万人)が増加となった。
- 8月の平均労働時間(33.7時間/週)は前月と同水準で推移。平均賃金は前年比+2.5%と前月(同+2.3%)から伸びを高めた。
- 8月の失業率は、6.1%と前月(6.2%)から改善。労働参加率も62.8%と前月(62.9%)から小幅低下した。

## 基調判断と今後の流れ

- 8月は、非農業部門雇用者数の増加が7ヶ月ぶりに20万人を下回った。ただし、14年初来では月平均21.5万人増と、13年(同19.4万人増)を上回るペースで増加しており、米雇用市場は改善傾向が続いている。
- 企業の雇用スタンスを示すISM雇用指数をみても、製造業、非製造業ともに増減の分岐点である50を上回っている。今後も雇用市場の緩やかな改善が続くとみられる。
- もっとも、非自発的なパート労働者数が全体に占める割合や平均失業期間は金融危機前に比べて依然高い水準にあるなど、雇用の「質」の改善は遅れている。
- FRBは、こうした雇用の「質」も含め、幅広い指標を考慮して景気情勢を見極めつつ、慎重に金融政策の正常化を進めていこう。

図表2 米国失業率



資料：米国労働省